

土木工学科創立二十年の節目

同窓会長 佐藤 紀一



厳しい暑さもようやく峠をこし、秋の気配が感じられるこの頃、同窓の皆様には、元気で精いっぱい頑張っていることと思います。

我が同窓会も、17期、590名を数えるに至り、国内のみならず海外にても、光る汗を流していることを、誇らしく思っております。またこのように思っているのは、私だけではないでしょう。

オイル・ショック以来、内外の経済情勢はまことに厳しいものであり、例外なく建設の分野にてもその影響が大きく、このような環境のもとで、より良い仕事をするためには、同窓生のスクラムは欠くことの出来ないものと感じます。

この様な中で、皆様の期待を集めて創られた同窓会が、その産声を上げてから7年が経ちました。また土木工学科が創設されて、20年が経過しました。

この間に若樹が根を下ろすように、同窓会のしっかりとした基礎を築くため、努力してきたことは皆様の周知のとおりです。

その節目に、たくさん同窓生の参加をいただき、盛大な20周年の記念行事を、大学の先生と共に行なうことが出来ましたことは、先生の御指導と同窓生の理解と協力があったからと感謝しております。

久しぶりに会った同窓生が、肩をたたき合いながら親交を温め合い、先生を囲んで楽しく笑談している様は、まさしく同窓会と思えるものでした。

同窓会のこれまでの道程を振り返るに、全てが順調に遂行してきたとは、必ずしも言えるものではありませんでした。しかし、これまでのものを根に、この会に対する皆様のこれまで以上の熱意と協力を確信し、大きな樹に育てたいと思っています。また、皆様からの御意見を期待しています。

最後に、同窓生諸君そして御家族の御活躍と御健康をお祈りいたします。

(1期 秋田県庁勤務)

異 国 で の 同 窓 会

佐 瀬 攻

小生、卒業以来、港湾関係のコンサルタントに勤務し、国内の港湾の調査、設計、施工管理等にたずさわっていましたが、今年（昭和60年）の春より発展途上国を対称とする港湾の開発及び整備調査の仕事をしている運輸省港湾局の外郭団体である（財）国際臨海開発研究センターに出向し、出向後1ヶ月足らずでインドネシア国スマラン港（中部ジャワ）の整備開発の仕事で昭和60年5月27日、首都ジャカルタ入りしました。インドネシアには同期（土木一期卒）の須藤憲蔵氏、三期の青木正春氏がそれぞれバンドンとジャカルタにいることはわかっておりましたが、小生の仕事がジャカルタではなく、中部ジャワ（スマラン）であり、ジャカルタでは当初の一週間足らずで、政府への表敬、仕事の説明が終わると、すぐスマランに移動しました。調査の期間中もジャカルタ、バンドンへは仕事で出かけましたが、時間がなく、再びジャカルタに戻る前に須藤氏には手紙で、青木氏へは電話で、7月27日、ジャカルタで会う約束をしました。当日、ホテルにいる小生を須藤氏がバンドンから訪ねて来ました。彼に会うのは卒業以来ですから、実に15年ぶりです。須藤氏は（株）新日本技術コンサルタント勤務で、バンドンの近くのダムの工事現場に来て7年になるとのこと。青木氏からの連絡を待ちながら部屋でビールを飲みつつ、久しぶりの再会に時の経つのも忘れるほどでした。

青木氏から連絡がないので、こちらから自宅へ電話をしたら、まだ帰ってないとのこと。それでは、と2人でおしかけることにしました。ホテルの前でタクシーを拾い（タクシーと言っても昔の型のサニーでクーラーも無し）運転手に「JL. GumnK Dalam 17 D tahn?」（GumnK Dalam 通りを知っているか?）と聞いたら、「Tahn / Tahn /」（知っている。）と言うので、まかせて乗ったら、持っている地図の感じとは違うので、再度運転手に問い



正したら「TidaK Tahn ノ」(知らないノ)と言う仕末。結局30分ぐらいで行けるところを1時間もかかり、当初運転手との交渉では3,000RPということだったけど、泣き出しそうな顔をされて5,000RP渡したら、喜んで帰って行きました。

青木氏は清水建設勤務で、奥さん、子供と共にインドネシアに来ており、最初はスマトラ島のアチェ、次が中部ジャワのスマラン、そして今年の春からジャカルタと、もう5年になるそうです。青木氏とは東京にいる仲間とこちらに来る前に一緒に飲んだことがあり、そんなことを話しながらさっそくビールで乾杯となりました。その後、青木夫人の心尽くしの料理に酒も進み、良い気分になって来ました。いろいろ話しているうちに明日はゴルフをやろうと言うことになり、須藤氏と小生はホテルに帰り、明日に備えることになりました。

翌日のゴルフは、青木氏は連日のゴルフ疲れ、須藤氏と小生は前日の酒が午前中は抜けないためハッとせず、午後は暑さと疲れのせいか空振りが目立ちまたまたハッとせず。しかしスコアはどうでも、久しぶりに会い、こうして一緒にゴルフが出来、心地良い汗を流せたことが楽しかったようです。

ゴルフ終了後、とにかく皆健康でいれば、日本といわずどこでも会えるのだから、体に気をつけて頑張ろう!!。そして小生がまた11月に来るのでそのときまた会おう!!と約束し、3人だけの「異国での同窓会」を終えました。

(1期 (財)国際臨海開発研究センター勤務)



第1回土木工学科47同級会

佐藤弘幸

昭和61年5月3日、この日秋田は快晴。桜も満開となり初夏を思わせる陽気で、我々の土木工学科47同級会開催を祝すかのようであった。

土木工学科47同級会会員は、土木工学科7期生主体で会員35名。出身地は、北は北海道から南は沖縄までと日本全国にまたがり、卒業後10年経った現在、各々の職場で実務の中心となり活躍中である。

卒業時、第1回の同級会は10年後秋田でと決めていたが、3年前より積立等の準備を進め、今日の同級会開催となった。

5月3日午後4時、今回の同級会参加予定者20名全員が、土木工学科校舎前に顔を揃え、まずは記念植樹（枝垂桜）、記念撮影をする。卒業以来10年ぶりの顔も多かったが、近況を語り合ううちに、皆学生時代の顔に戻っていった。

その後、場所を今日の宿泊先（先生方を除き、全員が宿泊）である栄太楼旅館に移し、午後6時30分より宴会が行なわれた。宴会には当時の恩師である徳田・清水・薄木・石井・及川・加賀谷の各先生方にも御出席いただいた。先生方からは大学の近況や我々の学生時代の思い出話を、又



我々は近況報告をしながら、久々の秋田の料理に舌鼓を打ち、酒に酔いしれるうち座は車座となり、10年間の積もる話を肴に宴会はいつ果てるともなく続いた。その中で、今回残念ながら参加できなかった会員たちも、全員元気で活躍していることが報告された。栄太楼旅館での一次会終了後、全員揃って懐かしの川反へ……。10年前とは大部様子が変わったが、飲み、話すうち、心は昔に戻り、時のたつのも忘れて川反の夜を堪能した。深夜、旅館に帰ってからも各部屋では、夜を徹して語り合う姿が見られた。

5月4日、朝食前は川反を散歩するもの、千秋公園にバードウォッチングに出かけるもの、ぐっすりと寝ているものと様々であったが、朝食時には全員昨夜の疲れも見せず集合、朝食を取った。そのあと、次回同級会を5年後、昭和66年5月初旬、東京周辺を会場として開催することを申し合せ、今回の第1回土木工学科47同級会は幕をとじた。

（7期 大民施設工業K K 勤務）

事務局だより

昭和61年3月8日、同窓会理事会が開催された。議事内容は(1)昭和60年度収支決算、(2)昭和61年度事業計画、(3)その他であった。出席者は、佐藤(紀)・及川・加賀谷・対馬・小野・長谷部・若菜・高田屋・柏崎・佐々木(修)の10名であった。以下、収支決算および予算案を下に記す。

昭和60年度秋田大学土木工学科同窓会 収支決算

(収入)	会費	450,000円
	利子	39,956円
	前年からの繰越金	640,369円
	第3回総会残金	20,000円
	寄付	100,000円
		<hr/>
		1,250,325円

(支出)	同窓会だよりおよび案内状印刷費 (アルバイト、郵送料含む)	134,440円
	慶弔費(奈良技官)	30,135円
	通信費	5,600円
	理事会足代	61,600円
	事務費	16,000円
	名簿作製費(アルバイト260,000円料含む)	260,000円
	交流会費	50,700円
	20周年記念会への寄付	250,000円
		<hr/>
		808,475円
	残金	441,850円

昭和61年3月7日上記収支決算について監査が行われ、関係諸帳簿並びに諸証明書とも符合し、適正なものであることが若菜会計監査員によって認められ、理事会でも承認された。

昭和61年度秋田大学土木工学科同窓会 予算案

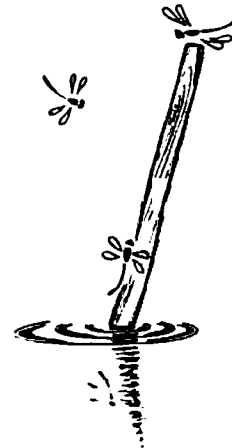
名簿及び記念誌郵送料(アルバイト含)	150,000円
--------------------	----------

同窓会だより	80,000円
交流会	60,000円
事務費	57,850円
	<hr/>
	347,850円

なお、故宇佐美氏夫人からの寄付は同窓会事務局の事務設備充実のため、金庫、鍵付のたな、同窓会会長之印等を購入するのにあてることとなった。

以上

(加賀谷記)



第7回交流会

昭和61年8月2日(土)恒例の同窓会行事である「在学生との交流会」が行なわれた。今回は例年と異なり、学生の就職内定前の時期を逃し、またひと汗ながしてからという目的で、秋大野球場にてソフトボール大会が開かれた。県内にいる同窓生に声をかけて参加を求めた結果13名ほどの会員が多忙にもかかわらず駆けつけてくれた。少々腹の出た同窓会チームと、在学生チームでは勝負はやる前からわかっていたが、みんな和気あいあいとスポーツに汗を流した。夕方からは学生会館をかりて交流会。始めに前同窓会長、小林氏の長年の労をねぎらい、同窓会から記念品が渡された。その後、佐藤会長の乾杯の音頭で交流会が始まった。会が進むにつれ、学生と同窓会員の輪があちこちに出来、いろいろな話に花が咲いた。来年度もこのような交流会を計画しているので、多数の参加をお願いする次第である。

(柴田 記)



編集後記

昨年11月、多くの同窓生諸氏出席のもと、「土木工学科創立二十周年記念事業」が盛大に行なわれました。その節は会員の皆様方に御協力をいただき、ありがとうございました。これを大きな節目として、同窓会も種々の活動をくり広げて行きたいと考えております。

今後とも御指導、御支援よろしくお願い申し上げます。

発行所 〒010 秋田市手形学園町1-1
秋田大学鉱山学部土木工学科同窓会
TEL 0188 (33) 5261
振替 秋田 4736

発行人 佐藤 紀一
編集委員 柴田 恒夫 (5期)

印刷所 大門印刷株式会社
秋田市新屋扇町82-19
TEL 0188 (28) 4615

